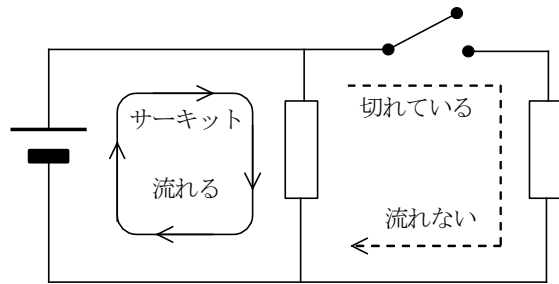


## 《Point ⑥》車の流れをつかむ

今までのポイントをふまえた上で、道路（回路）のどの部分に車の流れ（電気の流れ、電流）があるかをチェックする！

＜見分け方＞

- i. まず流れを起こそうとする電池が存在する。
  - ii. 流れがせき止められるような、行き止まり回路でないこと。
- ⇒ 『サーキット状の循環状態になっていること!!』



## 第5講 コンデンサーの解法の決め手

### 【コンデンサーの4大公式】

Qは極板にたまっている電気量、つまり具体的に存在する『モノ』である。

電位Vは2枚の極板の高低差（電位差）  
これは『モノ』ではない!!

極板の高低差（電位差）Vが大きければ大きいほど、そのとき極板にはたくさんの『モノ』（電荷）Qがたまっている、ということになる！

→ 『QはVに\_\_\_\_\_している』

$$Q = CV$$

①  
Q : 電気量    V : 電位差  
C : 比例定数（電気容量）

### 《Image》電気容量Cってなに？

上の式のもう一つの意味は、極板間に同じ電圧をかけたとき（高低差をつけたとき）、Cが大きければ、極板にたまる電気量は大きいということ。（QはCに\_\_\_\_\_）  
つまり....

「Cはそれぞれのコンデンサーが持っている電気をためる能力」

言い換えれば....

「駐車場の収容能力」

$$C = \epsilon \frac{S}{d}$$

②

S : 極板の面積    d : 極板間隔  
ε : 比例定数  
(極板間にはさむ誘電体の誘電率)

